

人間文化研究機構北東アジア地域研究プロジェクト

東北大学環境人類学班テーマ：北東アジア環境人類学の国際的ネットワーク構築

Networking Project of Northeast Asian Environment Anthropology

目的

北東アジアの環境に関わる国際的な人類学ネットワークの構築

北東アジア地域は、寒冷地における環境と適応の人類史、巨大国家の統治と経済開発に対峙する地域住民の関係という点で独自の人類学的課題を有している。言語学的系統や民族史という観点で、この地域は統合的に捉える必要がある。しかしこの地域はかつて（そして一部は現在においても）社会主義体制であり、外国人の社会学者が自由に研究できる体制ではなかった。1990年代以降、その状況が変わったが、その結果、これまでロシア、モンゴル、中国という国家に分かれてフィールド研究が進んでおり、地域を越える越えた調査研究や研究ネットワークは不十分である。これは日本の研究者においても同様で、日本とそれぞれの国との二国間交流に限定されている。

このプロジェクトの目的は、それぞれの国のなかで蓄積されてきた北東アジアの人類学の課題を、国家を越えて共有するとともに、共通の議論を行う研究者の交流の土台を作ろうとするものである。例えばモンゴル国の場合、モンゴル人に加えて社会主義時代はソ連、民主化後は西欧や東アジアの研究者が交流する状況はあったが、現在の交流はロシアや中国までには十分及ぶものではなかった。この状況を改善し、国境を越えた北東アジアの国際的な人類学ネットワークを構築することが目的である。特に焦点を当てるのは、環境への視座である。具体的には歴史過程も視野に入れた気候変動と適応、資源開発に絡む地域社会と文化動態などが想定されている。

2016年から2020年の5年間において、研究拠点機関の連携を通して、様々な形で研究集会やシンポジウムを開催し、ロシア、モンゴル、中国に関わる北東アジア環境人類学の人的ネットワークを構築すると共に、それぞれの地域で何が重要な課題であるのかを共有する。さらに議論を通して国際的な優先度の高い研究課題を開発していく。

1990年代以降、北東アジア地域研究という枠組みが成立して以降、国際関係・安全保障・経済協力といった現代的な視座が中心であった。このテーマの遂行を通して、北東アジア地域研究をより長期的な歴史文化的観点で捉える視点を提供する。地域社会の文化に着目する人類学の役割を明確にしながら、共生のための地域像構築に貢献する。

計画

2016年～2017年 （1）二国間交流型研究集会

- ・ 関連機関連携を通じた国内における北東アジア地域の環境人類学者の交流
- ・ ロシア、モンゴル、中国で鍵となると研究者の探索
- ・ 欧米や東アジアのなかの北東アジア環境人類学の鍵研究者の探索
- ・ 若手研究者の育成

2018 - 2019年 （2）多地域交差型研究集会

- ・ 第一期の成果を下にした論文集の制作
- ・ 多地域交差型研究集会をロシア、モンゴル、中国で開催
- ・ 若手研究者の育成

2020年 総括

- ・ 研究コンソーシアムの構築
- ・ 第二期の成果を下にした論文集の制作